



青森県教組養護教員部 2019.10.25.

折々 ことば

鷲田 清一 1520

ママリンだけでなく、人生や仕事においても「途中」を楽しむことが大事だと、女優は言う。それを知れば「結果」や「お金」はどっぴりよくなる。歳がいくつになっても「家」で片付けや雑用をしながら過ごす時間が増えていく。でも「面倒」さや「途中」には「宝物」がいろいろ転がっている。昨日と同じ「市原悦子」こと「宝物」から。

2019・7・13

白鳥が渡ってきました。16日(水)の朝浪岡駅へ向かう車中で、5羽が1列に並び飛んでいるのを目撃。お帰りなさい、ゆっくり羽を休めてね。私の通勤途中の楽しみです。会えるのが。

お元気ですか

あつという間に10月下旬。先日まで夏物も引っぱり出していたのに、おしゃれの秋を越えて冬が到来してしまっただけ。この頃です。

子どもたちは元気な学校生活を送っています。みなさんは、1学期よりは少しゆったりできていますか。来室した子の気持ちを聴いています。言葉は聴くのではなく、(言葉の奥にある)気持ちを聴くのだよ。

二〇一〇年十二月 とよしまめぐみ

あばあちゃんイスと保健室

とよしまめぐみ

本の紹介

2011年1月21日発行 東山書房

現職時代に読んでこの本をブックオフで見つけました。懐い！一読をお勧めします。

あとがき

学校における保健室は、ほかの何物にも代えがたい、特別な場所です。病気がケガなどはもちろん、目には見えないこころの悩みを聞いてもらえる「癒しの場所」だからです。実際、大人たちが日々大きなストレスを抱え、その影響がどうしても弱いもの、つまり子どもへと向かってしまっている現在の日本では、「駆け込み寺」のような状況にある保健室も少なくないようです。

そんなふうに子どもたちの悩みが集まってくる保健室に、年代物の不思議なロッキングチェア「おばあちゃんイス」がどっしり構えていて、じっくり悩みを聞いてくれたり、知恵を授けてくれたりしたら、どうでしょう。「おばあちゃんイス」とともに子どもたちに寄り添い、親身になって奮闘してくれる保健室の先生がいたら、どうでしょう。

養護教諭のための専門誌「健康教室」で連載された「おばあちゃんイスの小話」は、「そんな保健室があったら……」という想像と、「ぜひあってほしい」という希望からスタートしました。

それから五年。担当の山本敬一さんと読者のみなさんの励ましの声に支えられながら、毎月、不思議な「おばあちゃんイス」と保健室をめぐる小さな物語を紡いできました。子どもとさまざまな悩みと真正面から向き合うお話、担任の先生や友達とのトラブルをめぐるお話、親子の絆を描いたお話……。実にさまざまなお話が生まれました。

スタート当時は、毎回新たなお話のテーマを見つけるのは大変に大変……と思っていました。意外にもスムーズであり、かつ楽しい作業でした。現場で奮闘されている養護教諭の方々への取材では、多くのヒントとアドバイスをいただきました。自分自身の子ども時代をじっくり思い起こすことで、書いておきたいエピソードもたくさん見つかりました。また、連載中に妊娠・出産を経験して二児の母となったことも、「学校のお母さん」とも呼ばれる養護教諭のまなざしを描くことに役立つのではないかと感じていました。

今回、「おばあちゃんイスの小話」として掲載された六十編の中から選んだ三十八編に、新たに書き起こした二編を加え、一冊の本としてこの世に生み出せるのは、筆者として大きな喜びです。本書が、養護教諭の方々への応援のメッセージとして、養護教諭と他の先生を結び手段の一つとして、お役に立つことを祈っております。また、「学校」と子どもの世界を知るために、子育て中のお父さん・お母さんの参考になれば幸いです。



とよしまめぐみ

1972年、富山県生まれ。小学館第一編集部勤務を経て、スタジオ・パンネ主宰。フリーランスライター(いだいますみ)として、子育て、教育系雑誌や書籍の編集執筆

毎年アプルマラソンに出ている友人が、「今年は自分のペースを走れた」と喜んでいました。前は、人に抜かれると抜か返さなさと走ってペースをくずしたりしたも。今年はそれなりに走り込んで練習もしていたので、楽に走れたとのこと(とはいえ、もちろん苦しいのですが)。「やっぱり練習って大事なんだね」としみじみ話してました。もちろん、「完走する」という目標は達成。好きなことを、苦しい思いをしながらも楽しんでいる。文責 阿部陽子 スマイルサポート(017-722-3749)

あおもり教育のつどい 2019

詳しいチラシが必要な方は県教組まで

とき 11月9日(土)~11月10日(日)

ところ 青森県教育会館

保健室分科会は10日(日) 9:00~11:50

レポート「子どものためってどういうこと？」

齋藤祐子先生(弘前市立福村小)

アンケート同封しています

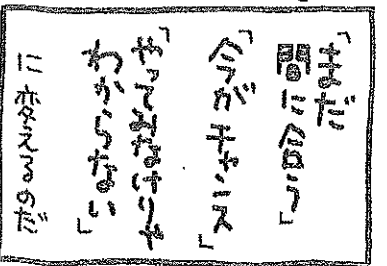
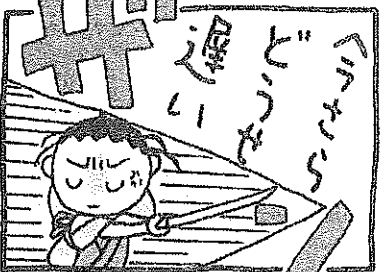
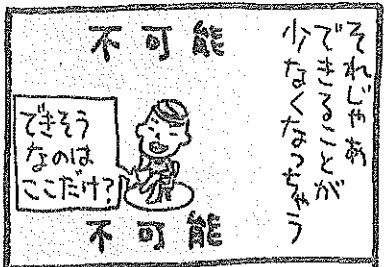
アンケートについての話し合い

おしやべりして元気になろう!



「遅い」「今さら」「どうせ」は
禁句にする。

CHECK!

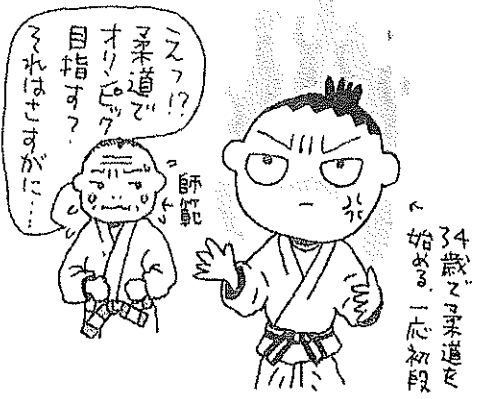


15の「口癖を変えてみる。」でも言ったように、ある出来事をどうとらえるかは、自分次第なんですよね。

例えば何かをがんばる時、自分が今いる環境をがんばる理由にするのか、できない言い訳にするのか?

- 「コドモが小さいから」
- 「この歳だから」
- 「パートナーが反対するから」
- 「お金も時間もないから」
- 「今まで、何かをやりとげたことがないから」

だから「がんばる」? 「できない」?
決めるのは、自分自身。
せつかくだから、与えられた環境をがんばる理由にしてみましようよ。



「キツパリ」

●気持ちから、変えてみる!

「まだ間に合う」「今がチャンス」
「やってみなけりゃわからない」に変えよう。

